

福島大学現代教養コース  
ビッグブラックゼミナール

葛尾村齊藤里内応急仮設住宅プロジェクト  
「復興」は、ここからはじめよう。



# 葛尾村応急仮設住宅プロジェクト とは？

## ○福島県「大学生の力を活かした集落復興支援調査事業」

大学生グループが福島県の過疎・中山間地域にある集落の実態調査を実施し、集落に応じた活性化策を提案することにより東日本大震災等の影響からの地域の復興や振興を目的とした事業。

## ⇒私たちの課題

原発災害による避難のため設置された応急仮設住宅で「復興」とは？

## ○ビックブラックゼミナール

福島大学現代教養コース（コミュニティ共生モデル2年）、大黒ゼミに所属する計33人

今年のゼミのテーマは、「偉大な革命家になろう！」私たちの社会が抱える課題をとりあげ、「お金」の力ではなく「人のつながり」がもつ力で、少しでもよりよい方向につなげるための活動と学びを創るゼミ。

# 葛尾村斎藤里内応急仮設住宅（三春町斎藤里内） —数字から見えるもの、見えないもの

葛尾村の人口

1508人

（平成26年1月）

斎藤里内仮設住宅

127名

斎藤里内仮設

65才以上の高齢者

58名

斎藤里内仮設

高齢化率 %

45.67 %

○地区ごとの避難

○買い物の不便

○お正月はどこで過ごす？

# 活動の出発点で ぶち当たった難問

復興ってなに？（・・・）？

仮設住宅のみなさん（とくに高齢の方々）にとって**復興**とは？

はじめに報道/ニュースで調べたこと

「復興」という言葉が意味するものは何か？

# 報道/ニュースに登場する 「復興」 —イメージのなかの復興

- ▶ 福島県にたくさんの人がある (→NHK大河ドラマ『八重の桜』)
- ▶ 福島県産の農産物が売れる (→「風評被害」の克服)
- ▶ 福島の復興道路/復興支援道路 (→「戦略的道路整備」の予算確保)
- ▶ 再生可能エネルギー開発巨大プロジェクト (→例: 洋上ウィンドファーム)
- ▶ 原子力発電所の廃炉 (→第1原発に続き第2原発も...)

⇒人それぞれの「復興」イメージ

⇒確かに福島県の今後にとって、どれも重要!

- ▶ しかし、それって.....?

# 私たちの疑問・・・！

— 仮設の皆さんと活動するなかで感じたこと

- ▶ 仮設住宅に住んでいる人（とくに高齢の方々）の日々の生活にとって、「イメージのなかの復興」がどんな関係があるのか？



- ▶ 「ふくしまから、はじめよう。」の出発点  
「復興は、仮設住宅から、はじめよう！」



私たちの考える「復興」  
その出発点は...

仮設住宅に住む人たちが  
以前の葛尾村での  
日常生活を取り戻すこと

原発事故や避難によって  
できなくなってしまったことを、  
再びできるようにしよう！



仮設住宅という困難な条件のなかで、どこまで可能か？  
そのお手伝いをするを私たちの課題にする



# プロジェクト3本を軸に活動

緑のカーテン  
プロジェクト

4月

- ・プランターに苗植
- ・ナス、トマトの栽培
- ・収穫祭の実施

梅干し作り  
プロジェクト

6月

- ・梅の調達  
(会津若松、仙台市根白石中学校)
- ・梅漬け
- ・配布

お正月料理プ  
ロジェクト

12月

- ・料理作り
- ・配布



アンケート/インタビュー調査実施 (12月)

# 緑のカーテンプロジェクト

## 一活動を通してみえたこと①

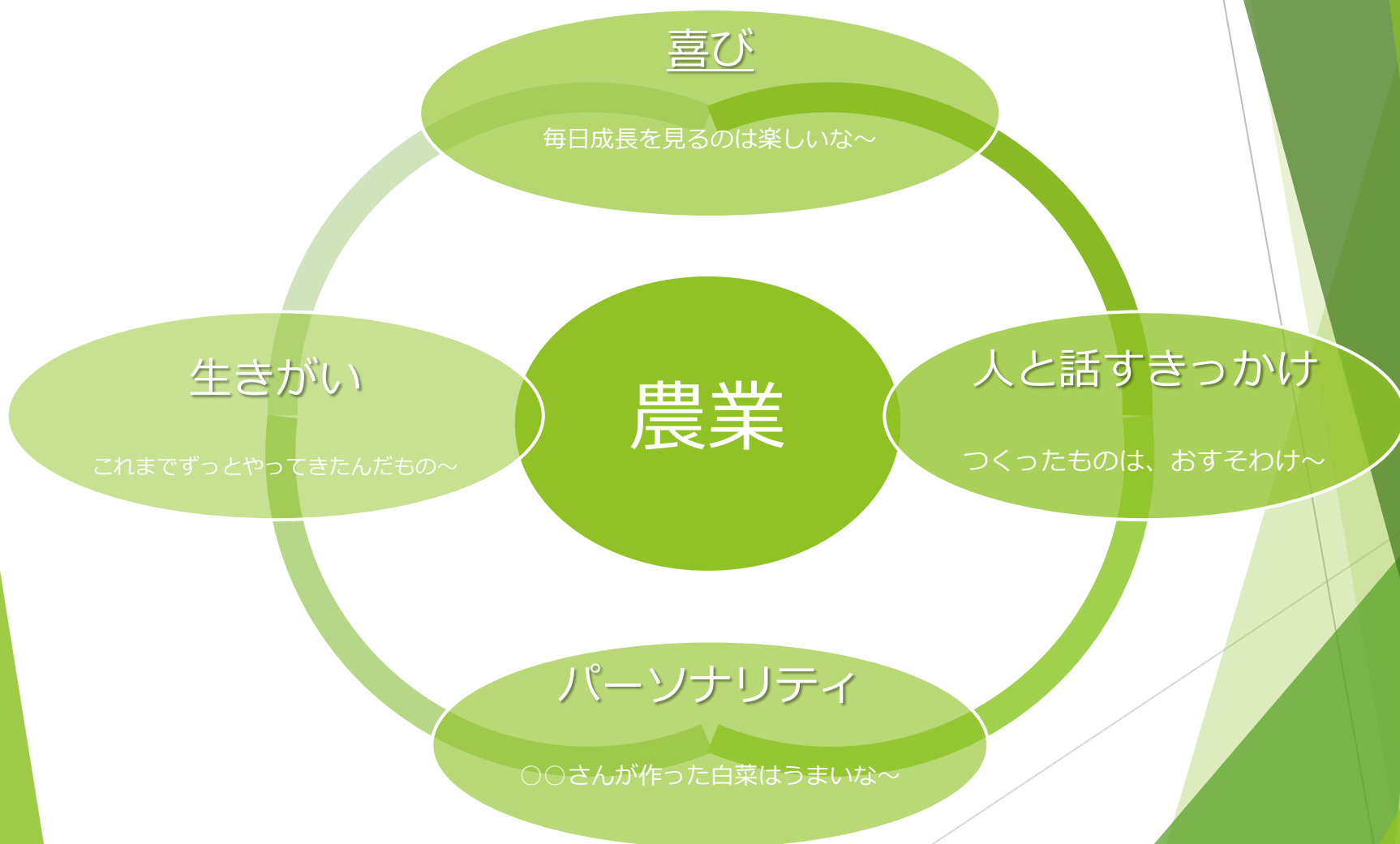






# 「農業」が果たす役割は大きい！

—農業の役割を取り戻したい！



# 梅干づくりプロジェクト

—活動を通してみえたこと②











# 人が集まるとなんでもできる！

— 「つながり」が生きる活動をつくりたい！

素材集めの

喜び

- 生梅は出荷停止
- 会津若松の農家
- 会津農林事務所の協力
- 仙台市根白石中学校の  
中学生が育てた梅

作る

喜び

- 梅の塩漬け
- 土用干し
- 赤紫蘇の収穫と塩揉み
- 漬けこみ

食べる喜び

完成！

# お正月料理プロジェクト —活動を通してみえたこと③









# きっかけがあれば、やってみたい

— できることはやれる、そのための「場」づくりを！

**料理なら、いまでもできる！**

**家族のためにやってきたこと、近所の人たちと一緒にやってきたこと**



**必要とされるなら、いまでもやってみたい**

**お正月にも仮設住宅に残る住民の方々が大半...**

**お正月料理も、数人のためだけにつくるのは大変**

**みんなで作って、みんなで楽しんでもらえるなら、やろう！**

# 活動のまとめとしての アンケート/インタビュー調査

(12月実施)

- ▶ 質問①これまで葛尾村ではどのようなお仕事をされてきましたか？
- ▶ 質問②子供のころ、お母さんやおばあちゃんが作ってくれた料理で、好きだったのはどんな料理でしょうか？1つだけお答えください。
- ▶ 質問③(2)の料理は、今でも食べる機会が多いでしょうか？選択肢のなかから一つ選んでください。
- ▶ 質問④(2)の料理は、ご自分で、今でも作ることができますか？
- ▶ ☆質問④-1(できるとお答えした方に)その料理は自分以外に、誰に食べてもらっていますか？
- ▶ ☆質問④-2(できないとお答えした方に)その料理が作ることができなくなった理由は？
- ▶ 質問⑤(2)の料理のことを考えるとき、思い出す人や行事、個人的な出来事などはありますか？それはどんな思い出でしょうか？
- ▶ 質問⑦近所の方々や集落のみなさんと一緒になって、料理を作ったり、あるいは料理を食べたりする機会がありましたか？それはどんなときでしたか？
- ▶ 質問⑧私たちは今後、みなさんから、葛尾村の料理を学びたいと思っています。「こんな料理なら教えられる!」、あるいは、「こんな作り方を伝えたい!」と思われる技などがありますか？





# アンケート/インタビュー調査 を通してみえたこと

## ▶ ありふれた葛尾村の日常生活が持つ力

日々家族のために作っていた料理の技

お祝い事やお葬式などで見せる集落の力

親子が繋ぐ食の技、野菜作りの技

子どもや孫のために、やれることはやろう

困った時は、お互いさま、「結」の精神で

.....斎藤里内仮設に避難している方々は、葛尾村のあり

ふれた「日常生活」のなかで培われた力を今でも

持っている

**⇒ 「日常生活」を取り戻すことが、力となる！！**

# 1年間の活動（3プロジェクト+調査） まとめ

①農業がもつ意義の  
広さ・深さ

②人が繋がる喜び

④できるならやってみ  
たいという気持ち

④日常生活に潜む力

# 今後の発展を求めて 活動はどう組み立てられるべきか？

## ▶ 農業（とそれにまつわる作業）を活動の中心に...①②

農業は単なる作業ではなく、「生きがい」「個性」「コミュニケーション」「喜び」のきっかけ

## ▶ 仮設の高齢者は支援の「対象」ではなく、あくまで復興の「担い手」として.....③

自分でできることは、家族や集落の人のためなら、ぜひやりたい！

## ▶ 葛尾村の人々の日常生活のなかに潜む力を発揮してもらうことで、復興につなげる.....④

復興は仮設住宅の皆さんが「日常生活」を取り戻すことから始まる  
復興は、ここ、仮設住宅からはじめよう。

# 来年度の活動企画（現在検討中）

## ▶ 緑のカーテンプロジェクト第2弾

トマトとナスの苗を育てる

みなさんのトマトを使って、トマトアイスを試作

## ▶ 梅干し作りプロジェクトのさらなる展開

梅干し作り第2弾

味噌作り

凍み餅づくり.....そして葛尾に戻ったら、「ワイン」！

## ▶ 齋藤里内仮設ブランドの農産物加工品販売！

トマトアイス

梅干し

味噌

凍み餅

終わりに...

プロジェクト代表

千葉隼輔（岩手県遠野市出身）

に語らせてください！



斎藤里内仮設から  
はじめよう

**Future From Saito-Satouchi**

ご清聴ありがとうございました